

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人☆

小野市社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネットおの)

買い物バスツアー
～専門職の付き添いで
安全・安心に～

住民のニーズから出発した買い物バスツアー

小野市では、市内全ての社会福祉法人が連携し、平成29年6月に「ほっとかへんネットおの」を設立。「無理なくできることから」をモットーに、20の法人が各地で活動しています。

今回は、高齢者への移動支援である「買い物バスツアー」と、その取り組みを始めた後の、市内の社会福祉法人の活躍を紹介します。



住民のニーズに法人の専門性で応える

小野市では、平成28年度に介護保険制度における生活支援体制整備事業の第1層(市全域)の協議体が設立された。以降、毎年1～2地区ずつ、第2層(概ね小学校区域)の協議体が立ち上がっており、その地区の社会福祉法人が、協議体の設立準備の段階から住民らと共に参画している。

よりそい協議会での
熱心な話し合い



平成29年度に設立した「^{きし}来住地区よりそい協議会」では、一つの取り組みとして地域の困りごとについての訪問調査を行った。その結果、高齢者の買い物、特に移動手段へのニーズが明らかになったことから、「買い物バスツアー」を試行的に実施。その振り返り会議では、乗降や買い物での介助が必要な住民が多く、自治会役員や民生委員・児童委員だけでは対応が難しいという課題が共有された。「介護の専門性がある社会福祉法人の職員が付き添ってくれたら」という住民の期待に応えようと、職員が「買い物バスツアー」への付き添いを開始。今では月1回のツ

アーに介護職員などが同乗するようになり、住民と社会福祉法人が協働で実施するバスツアーが来住地区に定着している。

地域に出ることで法人内の雰囲気も変化

ほっとかへんネットおのの廣田美智子代表(社会福祉法人栄宏福祉会)は、「ほっとかへんネットが立ちあがるまでは、出前講座やお祭りなどを法人単独で実施していたが、これでいいのかという気持ちがあった。今は、私たちの専門性が求められて地域に出ているため、職員は非常にやりがいを感じている」と語る。他の職員も影響を受けることで法人内の雰囲気も変化し、本来業務の質も向上しているという。

また、高齢、障害、児童などの種別を超えた横のつながりができたことも、ほっとかへんネットの設立が地域にもたらした変化だ。このことについて、廣田代表は「呼びかけてくれた社協の存在が大きい。社協は地域になくってはならない“まとめ役・つなぎ役”」と社協が果たした役割を振り返る。さらに、「今は住民が自分の住む地区の社会福祉法人の存在を認識してくださっている。今後は『ほっとかへんネットおの』をさらに知ってもらうため、広報にも力を入れたい」と、地域と共に歩んでいく今後の展望を力強く語った。

ほっとかへんネットおの
事務局：社会福祉法人小野市社会福祉協議会
TEL：0794-63-2575